

常在寺

常在寺は8世紀初頭に建立されました。625年に中国から日本に伝わった三論宗（仏教の一宗派）の寺だったという言い伝えがあります。1012年には、9世紀に中国から伝わり、現在も多くの信者がいる真言宗に改宗したと考えられています。

常在寺には大黒天の像が安置されています。日本神話の七福神の一人である大黒天は、インドのシヴァ神と神道の大国主が融合して生まれた神で、富と繁栄をもたらすとされています。

参道の両側には仁王像が2体あります。荒々しい外見は、災いが寺の中に入るのを防ぐためです。これらの像は、1825年に地元で採れた石から彫られました。1980年7月12日に嬉野市の文化財に指定されました。